

# 秦野市のごみの現状について

- 1 ごみの現状と課題（はだのクリーンセンター1施設化に向けて）
- 2 総ごみ排出量（資源を含む）
- 3 可燃ごみ量（家庭系・事業系）
- 4 可燃ごみ量（家庭系・事業系）令和5年9月まで
- 5 不燃・粗大ごみ量
- 6 不燃・粗大ごみ量 令和5年9月まで
- 7 資源量
- 8 資源物 令和5年9月まで
- 9 焼却対象量

# 1 ごみの現状と課題（はだのクリーンセンター1施設化に向けて）

## 【秦野市と伊勢原市の可燃ごみ】

現在、はだのクリーンセンターと伊勢原清掃工場の2施設で共同処理をしています。

しかし、伊勢原清掃工場（昭和60年10月竣工）が老朽化のため、令和6年3月末に稼働停止を予定しています。



**令和6年度以降も安定的に焼却処理するためには、  
秦野市と伊勢原市の焼却対象量を  
はだのクリーンセンター1施設で処理できる量まで  
減らす必要があります！**

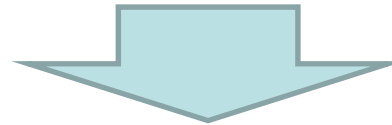
# 1 ごみの現状と課題 (はだのクリーンセンター1施設化に向けて)

【はだのクリーンセンターの処理能力】

年間 56,000 t

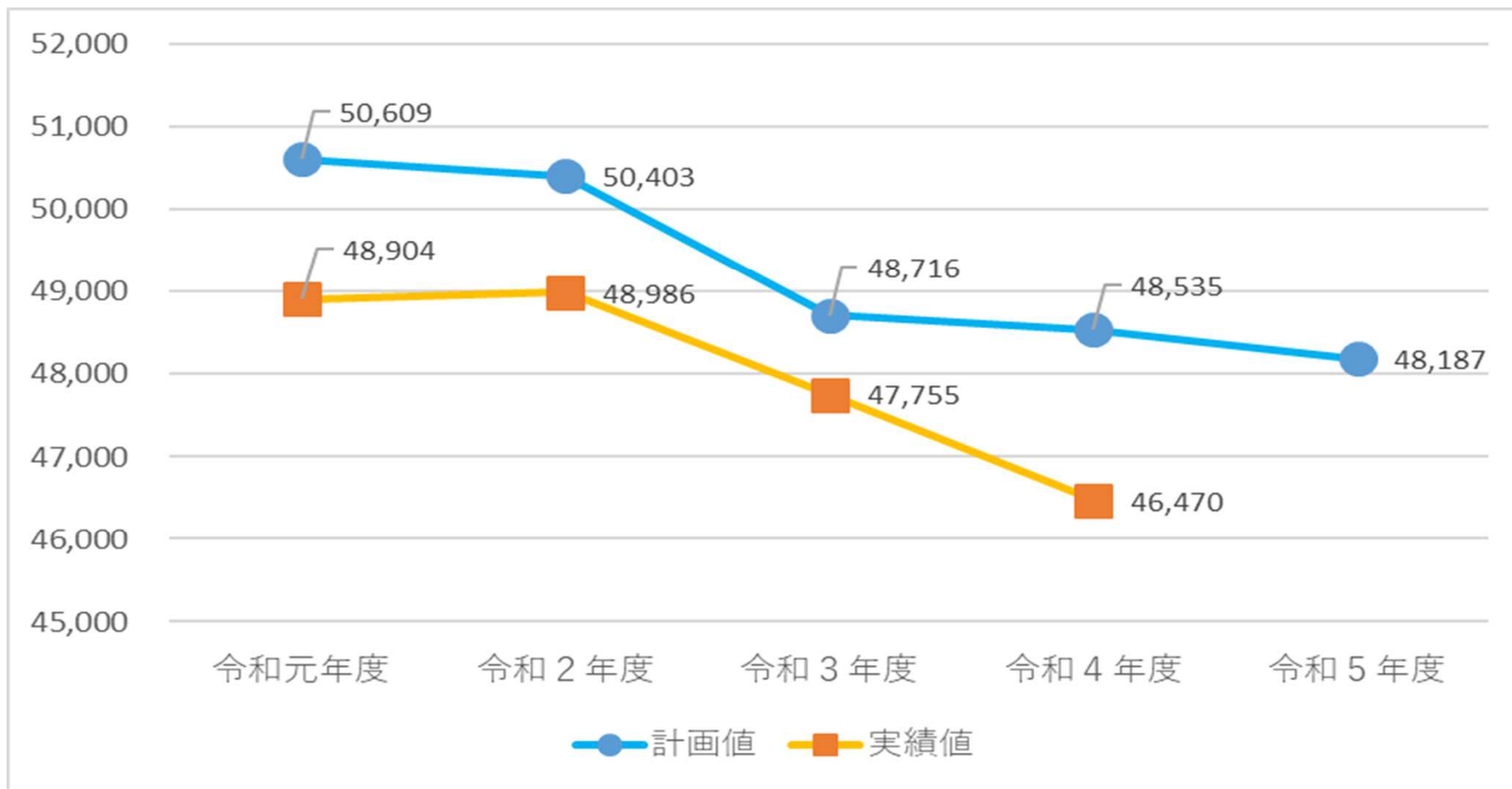
秦野市分の処理能力 年間 33,600 t

※ 秦野市「6割」、伊勢原市「4割」を基準



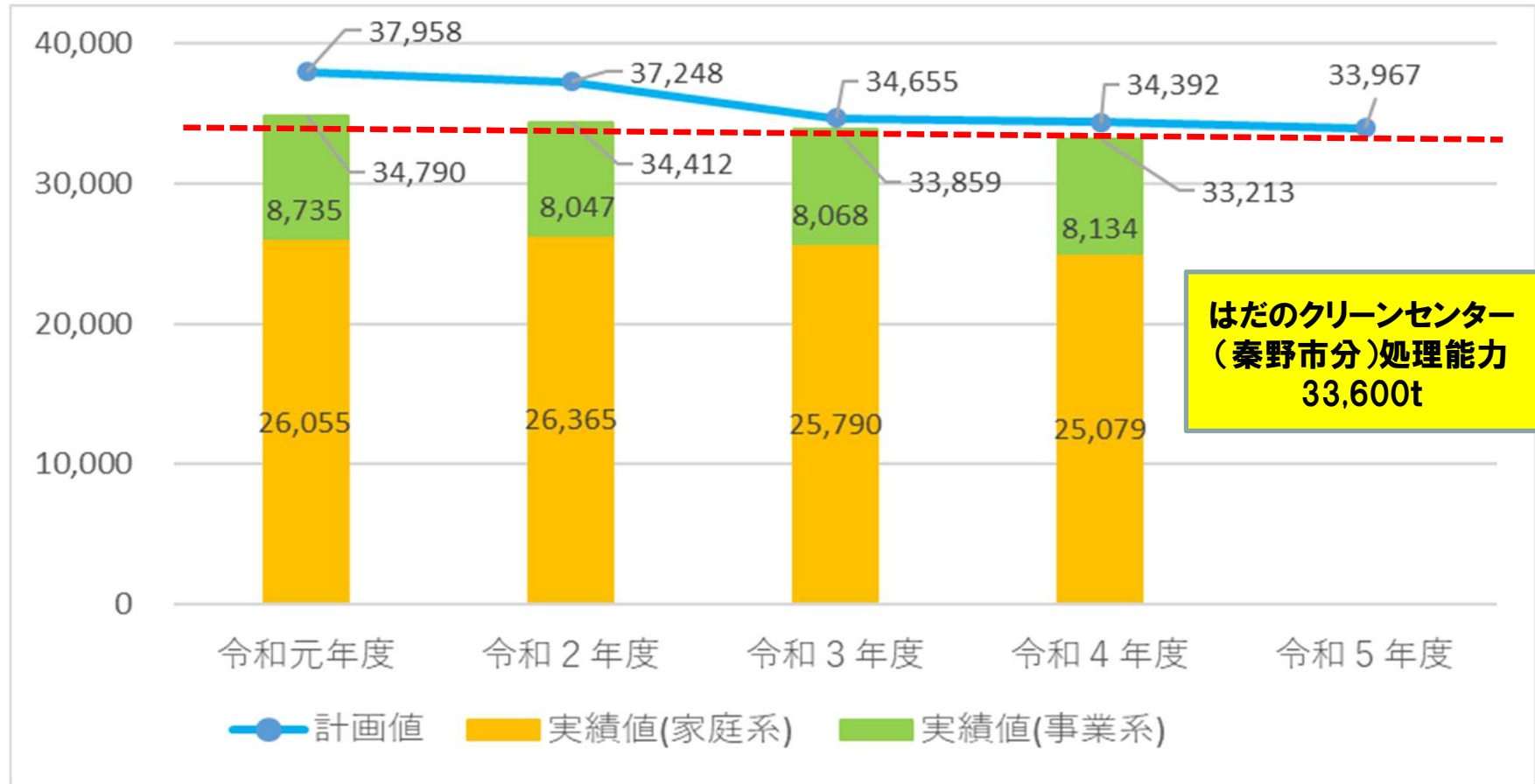
はだのクリーンセンター1施設で処理するため、  
秦野市と伊勢原市の焼却対象量を年間 56,000 t 以下  
秦野市分としては、33,600 t 以下に抑える！

## 2 総ごみ排出量（資源を含む）



ごみと資源の総排出量は、計画値や前年度実績より順調に減少している。  
R4の前年比 計画比4%減、前年比3%減

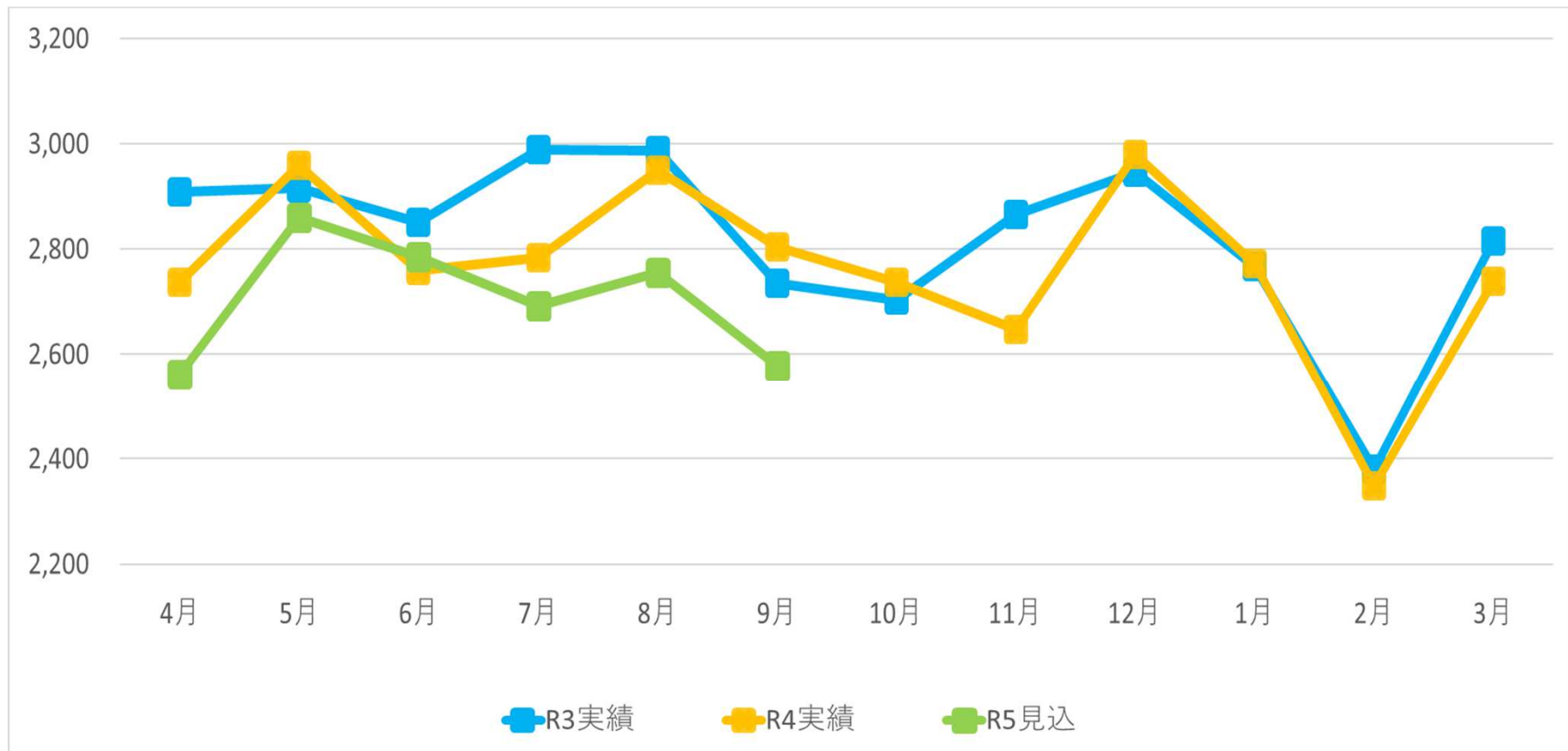
### 3 可燃ごみ量（家庭系・事業系）



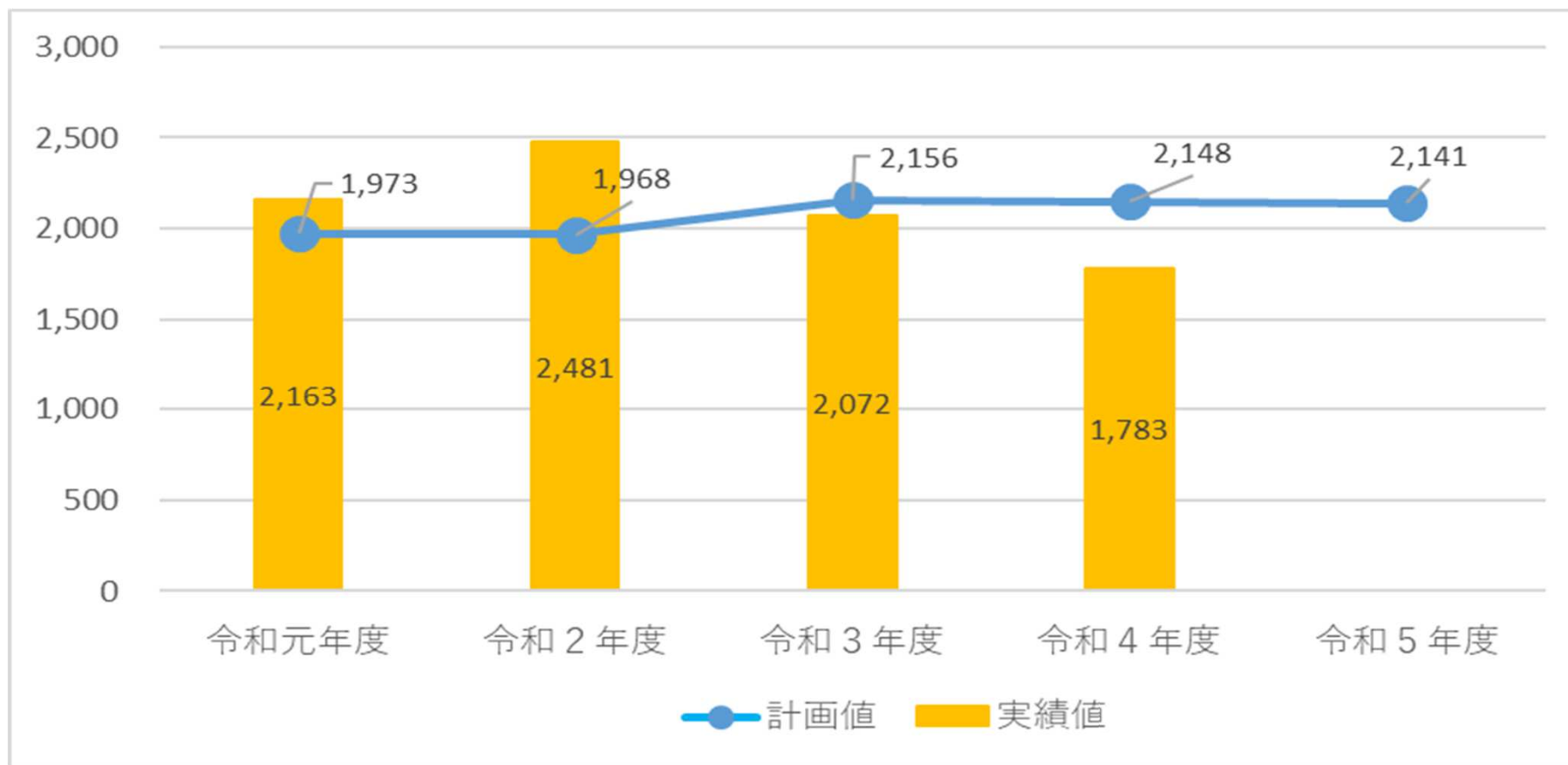
可燃ごみの量は計画値や前年度実績より順調に減少している。  
(はだのクリーンセンター(秦野市分)の処理能力を下回っている)  
R4の前年比 計画比3%減、前年比2%減

# 4 可燃ごみ量（家庭系・事業系）令和5年9月まで

	可燃ごみ量(4月～9月)	前年度比較
令和5年度	16,231 t	△759 t (△4%)



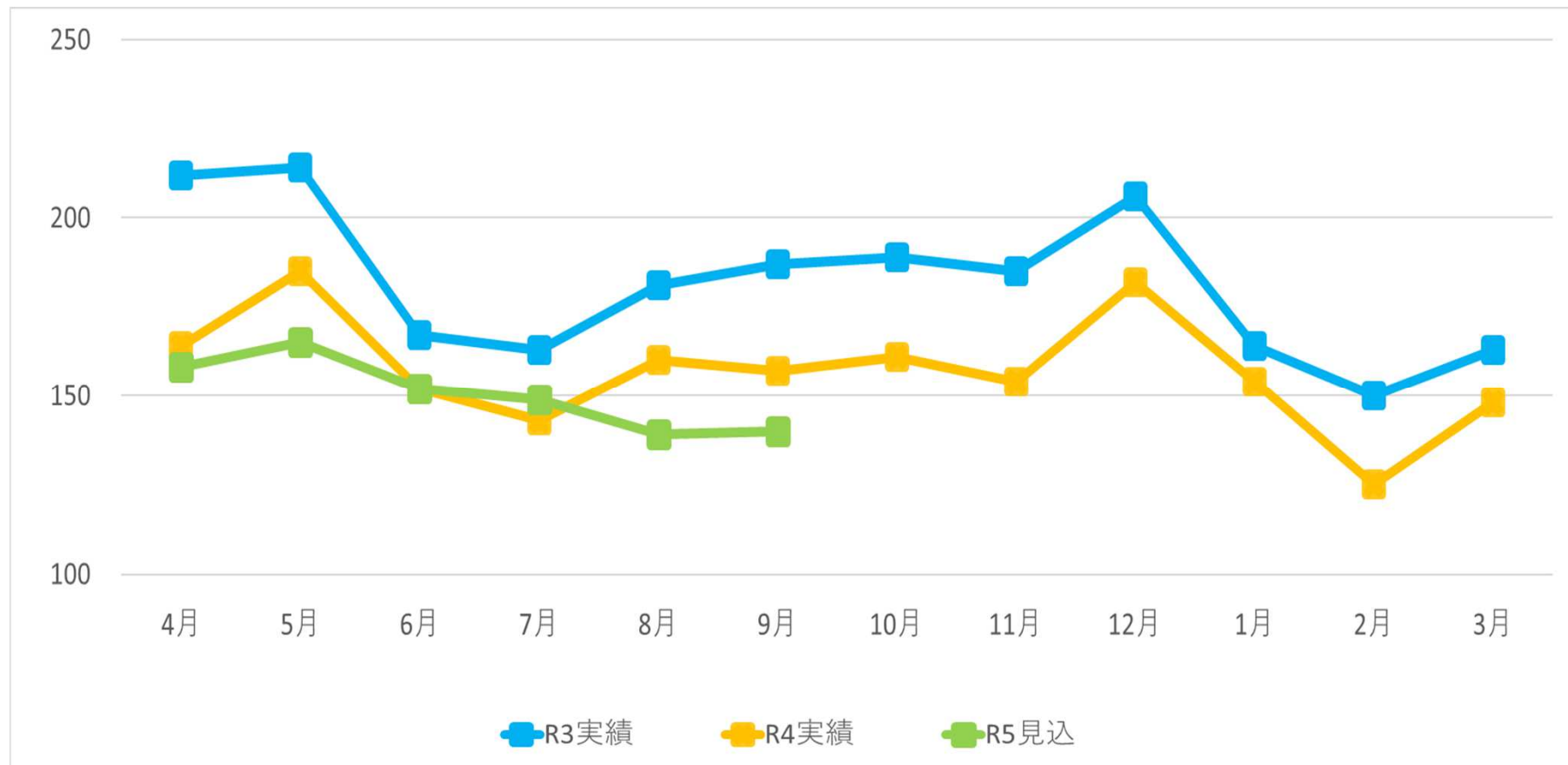
## 5 不燃・粗大ごみ量



不燃・粗大ごみの量は計画値や前年度実績より大幅に減少している。  
R4の前年比 計画比17%減、前年比14%減

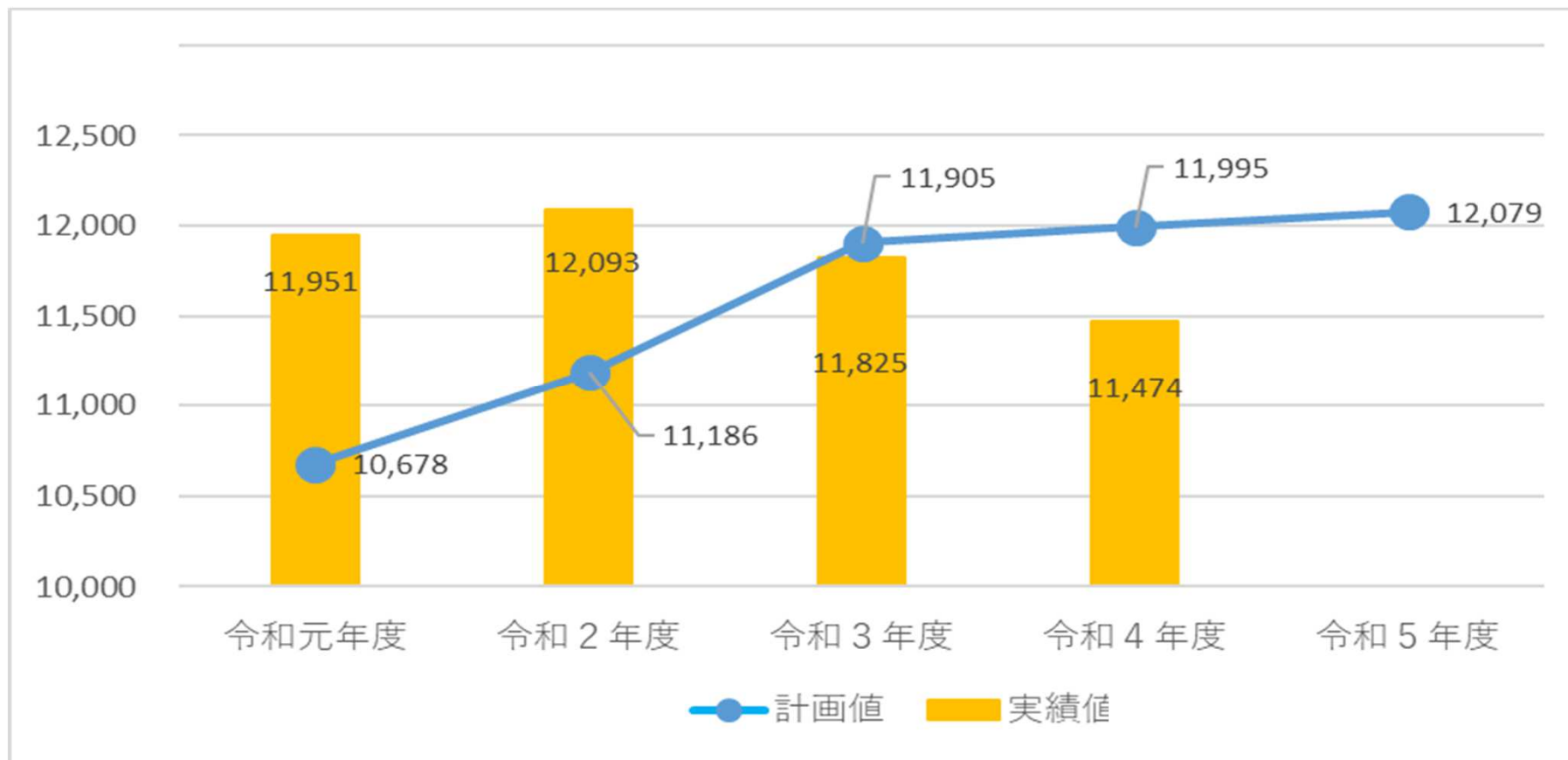
# 6 不燃・粗大ごみ量 令和5年9月まで

	不燃・粗大ごみ量(4月～9月)	前年度比較
令和5年度	903 t	△ 57 t (△ 6%)





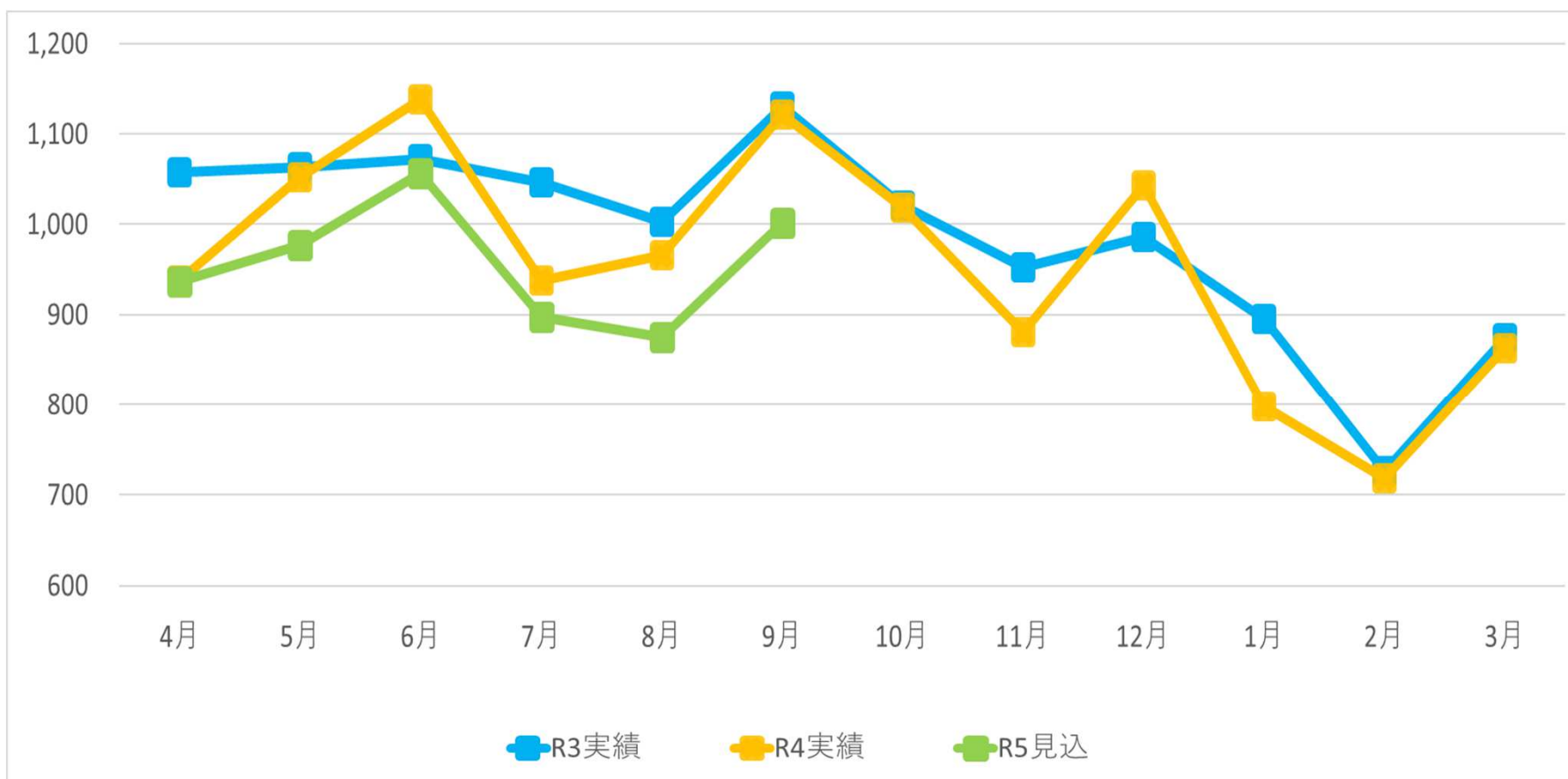
# 7 資源物



**資源物は計画値や前年度実績より減少している。  
(新聞、雑誌類、草木類が計画より減少)  
R4の前年比 計画比4%減、前年比3%減**

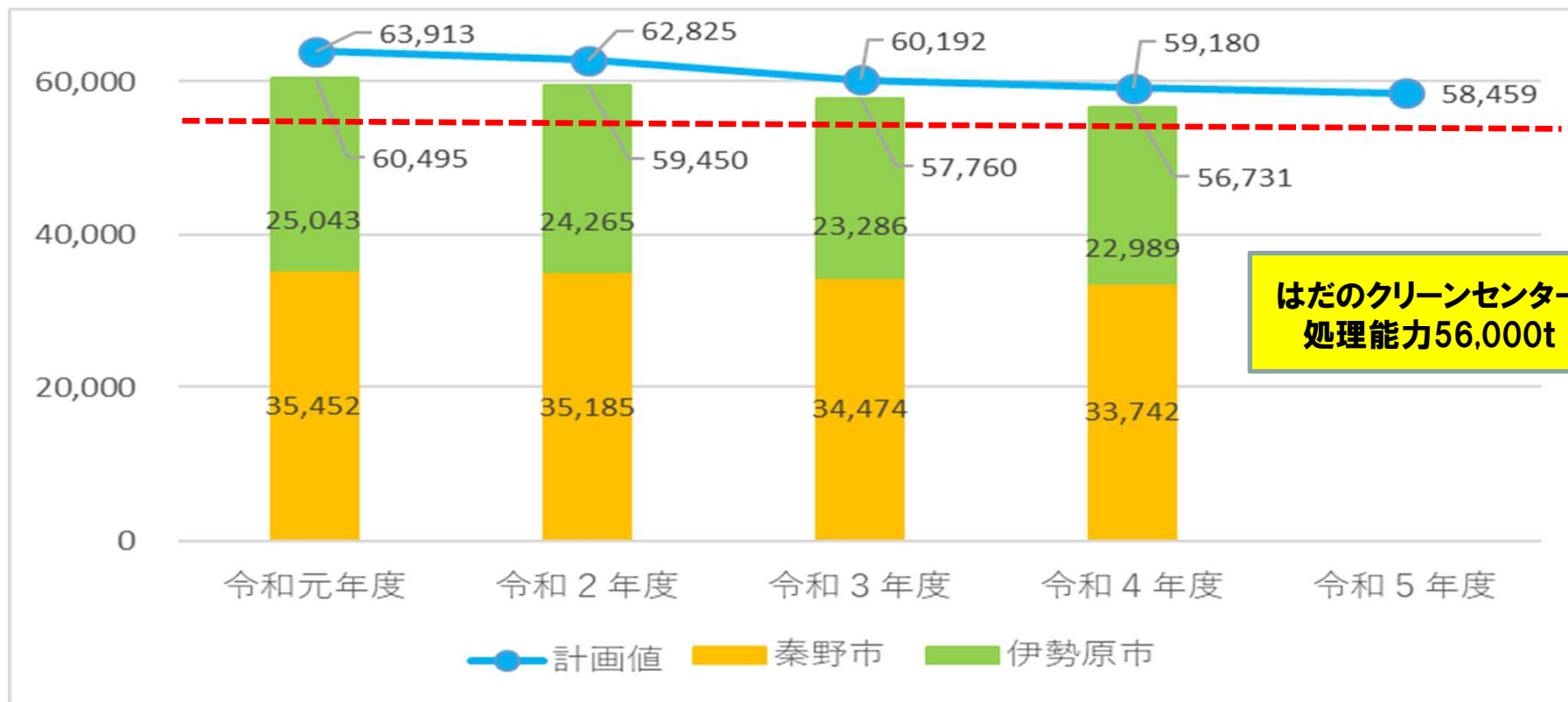
# 8 資源物 令和5年9月まで

	資源物(4月～9月)	前年度比較
令和5年度	5,743 t	△410 t (△7%)



# 9 焼却対象量

焼却対象量とは、不燃及び粗大ごみを破碎・選別時に発生した可燃性の部分、並びに栗原最終処分場から排出される汚泥の焼却量を可燃ごみ処理量に加えた数値。



焼却対象量は計画値や前年度実績より順調に減少している。  
 (はだのクリーンセンター処理能力まで あと約731t)  
 R4の前年比 計画比4%減、前年比2%減

### 焼却対象量(焼却施設で焼却処理している量)

56,731 t(秦野市33,742t、伊勢原市22,989t)

はだのクリーンセンターの処理能力(56,000t)まで  
残り 約731 t

#### 【減少した理由】

焼却対象量の減量については、人口減少も要因の一つですが、市民1人1日当たりの可燃ごみの排出量も573g(R3)から563g(R4)と減少しているため、市民による分別徹底の成果が表れたものと考えています。

令和5年度も減量が順調に進んでおり、  
9月末現在で前年度より 約1,230 t 減量しています。  
今年度末は処理能力を下回る見込みです。